

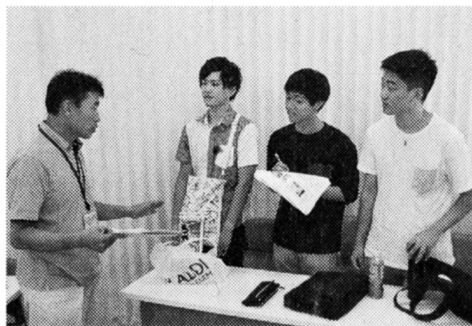
# PBL型授業で宇土市のまちづくりに貢献

崇城大学

崇城大学（熊本市）は、人的・知的資源の相互交流を図る目的で、平成18年に熊本県宇土市と連携協定を締結している。9月20日、同大工学部建築学科内丸恵一講師の研究室の3年生19人が、「宇土市のまちづくり」について、市役所で発表を行った。

この発表は、「地域計画設計」の授業の一環として行われたもの。自分たちで課題を発見し解決策を探るPBL（Problem based Learning）型の授業で、学生たちは6グループに分かれて市内を巡り、住民に話を聞くなど現地調査を重ねてきた。

地域の持つ可能性を引き出すまちづくりとして学生たちが提案したのは、「市内中心部に残る笹垣を生かした景観を楽しむまち歩き」や「網田焼をはじめとする地



発表後は自然と参加者との意見交換などが行われた

元の文化や職人の技術を併せた空き家のリノベーション計画」、「産業と連携した西部地区での宿泊体験」など、各グループの個性が表れた6テーマ。発表当日、市役所には元松茂樹市長ら関係者のほか、住民約50人が集まった。発表後は参加者から質問を受ける場面もあり、若者視点からのアイデアに対する住民たちの関心の高さがうかがえた。

市は今回の発表をまちづくりの参考にしていこうという。